論文審査の結果の要旨

2022年10月11日

学位論文題目　緩和薬物療法における患者QOLを向上させるための臨床薬学研究

学位申請者　熊井正貴

審査委員　主査　山田武宏㊞

副査　佐藤久美㊞

副査　今田愛也㊞

がん患者の多くが痛みや倦怠感、眠気といった症状を呈し、これらに起因する苦痛を緩和することは患者QOL向上のために特に重要である。申請者は、がん患者を対象とした緩和薬物療法において、がん罹患後の患者の終末期医療に積極的に関わっていくために必要な医療提供者側の要因について意識調査をまず実施した。その結果、業務から得られる満足感や緩和ケアへの関心の高さが、より積極的な終末期の患者と関わる行動に繋がることが明らかとなった。

次いで、がん患者の疼痛緩和に不可欠であるオピオイド性鎮痛薬による副作用対策に関する臨床研究を実施した。オピオイドによる眠気を発現し、安息香酸ナトリウムカフェイン散が用いられた4症例においては、保険適応範囲内の用量で、眠気のスコアが改善された。面会や外泊等、眠気を抑える必要がある状況において安息香酸ナトリウムカフェイン散投与が有効である可能性が示された。さらに、オピオイド性鎮痛薬の中でも汎用されるオキシコドン徐放錠投与により高率に発現するとされる、悪心の危険因子を明らかにすることを目的に、複数の要因の組み合わせによる悪心リスクを推定できるDecision Treeモデルを構築した。その結果、発現リスクは「女性」かつ「50歳未満」の患者で高くなることが判明し、該当する患者には制吐剤の予防投与を検討するなど、今後の効果的な制吐療法の実践に繋がることが期待される。

以上、本研究で得られたこれらの知見より、緩和ケアの質向上への貢献が期待されることから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。